

体験活動推進プロジェクト 全国的な普及啓発の実施

長期の集団的自炊生活推進・啓発事業

公益社団法人青少年交友協会

【事業のポイント】

○長期共同宿泊体験(生活体験学校)事業の実施



平成26年度 生活体験学校

1. 企画

(1) 事業実施の背景

今日の発達した高度情報化社会は、子どもたちの心身を蝕み、人間性や社会性の発達を阻害し、社会人としての基本的能力を身につけさせないまま成長させている。そこで、子どもたちが日本人社会でよりよく生きてゆくために必要な生活の知恵としての生活文化を伝える、見習い体験を通じて行う人間教育の機会と場が必要になっている。

(2) ねらい

現代の子どもたちに、生きる基本的能力としての生活文化を伝える体験活動の方法として、また先の東日本大震災のような大災害の発生後にも対応出来る自炊や共同生活のルールを身につけられる防災教育として、「生活体験学校」事業を実施する。これを新しい概念による少年教育としての体験活動と位置付け、普及啓発の手段として「調査研究報告書」を作成し、この取り組みを学校や地域社会、青少年教育団体などの各教育現場の実践に取り入れてもらうことを目的とする。

2. 実施概要

(1) 実施主体

主催:公益社団法人青少年交友協会
総責任者:森田 勇造(青少年交友協会理事長/野外文化研究所長)
後援:中野区教育委員会・杉並区教育委員会・豊島区教育委員会
協力:東京学芸大学杉森研究室

(2) 開催実績

月 日	内 容
平成26年5月24日	第1回推進会議:「生活体験学校」実施の決定
7月27日	「生活体験学校」開催に伴う事前運営会議
8月3日～8月10日	「生活体験学校」事業の実施(於:中野区立桃花小学校)
11月17日	第2回推進会議:「生活体験学校」事業の総括と調査研究報告書の編集方針の決定
平成27年2月28日	「平成26年度生活体験学校に関する調査研究報告書」の発行

(3) 推進月間の設定

(4) 事例の収集と発信

(5) 意見交換の場の設定

3. 成果と課題

(1) 事業成果

6. 活/日の長期の集団的自炊共同生活体験(生活体験)事業の実施に際し、プログラムの構成を1日中は実学的な授業中心で学習の楽しさを知らせ、午後は実技や自由時間を中心に当協会が日頃啓発・実践している野外文化教育の様々な活動、例えば生活体験・野外伝承遊び、道具作り等を効率的に組み込み、生活文化の習得や参加者同士の交流・会話がはずむように工夫した。また「自由な時間」も多く取り入れ、単なる休憩時間としてではなく、時間を創造的に活用しながら、群れ遊ぶことを通じて他者との関わり方や思いやり、助け合う気持ちを培う重要な機会として設定した。その結果、子どもたちはみんなで時間の使い方や遊びを工夫しあいながら、班を越えた仲間との交流とコミュニケーション能力の向上に大いに役立っていた。

期間中3食の食事は自炊とし、そのメニューも、体験活動のプログラムの定番のカレーライスやバーベキューだけでなく、羽釜を用いた炊飯の他、「鯔のひらき」「めざし」「交友鍋」「炊き込みご飯」「五目寿司」「かき揚げ(天ぷら)」「とんかつ」「お好み焼き」「スパゲティー」「手打ちそば」「豆腐作り」など多岐にわたり、様々な調理器具の使い方や料理の仕込みや段取り、出汁や旨味の出し方と意義、具材の切り方の調理方法を学ぶことによって、日常生活における食事の有り難さや両親の苦労を実感していた。

これらの取り組みを通じて、参加した子どもたちは、普段の生活では経験することの少ない生活体験に夢中になって挑戦し、協力し助け合うことや思いやりの心を身につけ、集団行動における自分の役割を認識するなど、日を追うごとに成長していった。

(2) 事業運営上の課題

事業効果を高めるためには長期間の日程が必要であるが、使用する会場(施設)と全日程寝食を共にして共同生活する人員をいかに理解を深めてもらいながら確保していくかが課題となっている。

(3) 事業成果の普及啓発の課題

科学的文明社会の急速な発展とそれに伴う都市化・情報化・核家族化・少子化等により、子どもたち(青少年)は、日常生活の中で、大人や異年齢集団から生きるに必要な基本的能力としての生活文化を学ぶことなく成長している中、依然多くの体験活動は、アメリカ的な野外レクリエーションとしてのキャンプやゲームであったり、自然との触れ合いを主なプログラムとする事例が中心であり、本来子どもたちが少年期に習得しておかなければならない当たり前のことを身につけて、生活文化を伝承する社会人になるための準備教育を目的とした内容のものが少ない。

体験活動のプログラムへの潜在的なニーズはまだ子どもたちの気を引いたり、楽しませるレジャー的なもの求めていることは否めないが、当協会が推進する「長期の集団的自炊共同生活推進事業(生活体験学校)」は、学校などの既存の施設を有効利用しながら、かつ工夫次第で安価に誰でも実施でき、共同生活を体験しそのルールや炊き出し(自炊)の方法などを身に付けておくことは、防災教育としても必要な取り組みであるということの理解をいかに深めてもらうかが課題である。

4. 団体プロフィール

当協会は、昭和49年以来、社会の後継者の育成を目的とし、異年齢集団による見習い体験的学習活動を通じて行う”野外文化教育”を全国的に啓発・実践している。また、科学的文明社会に対応する新しい人間教育のあり方の一つである、“野外伝承遊び”や”異年齢集団における共同生活”等を通じて、生活の知恵(生活文化)を伝承することを目的とした”生活体験”等の実践に積極的に取り組んでいる。

公益社団法人青少年交友協会

東京都豊島区池袋3-30-22-2F

TEL:03-5391-1901 FAX:03-5391-1902

<http://www.din.or.jp/~kouyuu> E-mail:kouyuu@din.or.jp



新宿～青梅43kmかつ歩き大会